

西山の線刻地蔵石仏

にしやまのせんこくじぞうせきぶつ



文化財愛護シンボルマーク

名称	線刻地蔵板碑	所在地	加古川市平荘町西山122
別称	ほほえみ地蔵、地蔵石仏、地蔵板碑、線刻地蔵石棺仏	管理者	西山町内会
数量	1基	指定	加古川市指定文化財
法量	石棺の地上高122cm、幅63cm、厚19cm	指定分類	建造物
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定名称	線刻地蔵板碑
時代	鎌倉時代、応長元年(1311)	指定年月日	平成18年(2006)3月2日



西山の線刻地蔵石仏

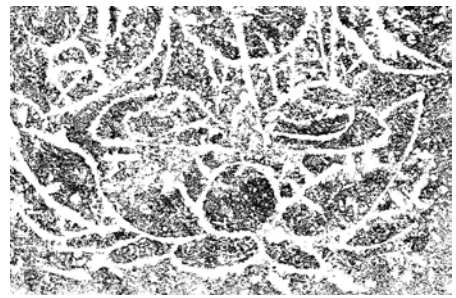


西山の線刻地藏石仏全景

この板碑は、古墳時代の石棺の底の部分を利用し、線刻で地藏菩薩を彫り出した珍しいものです。地藏像の左右に銘文があり、応長元年(1311)9月に制作されたことがわかります。

凝灰岩(竜山石)製の石棺を加工し、石棺の身部の底の内側の部分に、蓮華座上に立つ地藏菩薩の姿を線刻しています。地藏菩薩は、左手で胸前に宝珠を捧げ、右手に錫杖を持ち、頭光の中に簡素で円満な顔が表現されています。蓮華座は、鋭く丁寧に表現されており、この地域の中世石造品の中でも古様を示すものです。

制作年代が明らかなこの板碑は、この地域の特色である古墳時代の石棺材を再利用した石造品であるとともに、線刻で仏像が表現された鎌倉時代の遺品としては県内唯一の例と考えられるもので、この時代の石造品の形体や石仏の像容を知る上でも貴重なものです。



台座部分拓本



「応長元年」
銘文部分拓本

(拓本提供/藤原良夫氏、文・写真/宮本)

●参考文献

- 『石棺仏』宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立好古館(2001年)
- 「加古川市平荘町の石造美術」藤原良夫(『鹿児』128~135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

彫刻、石仏、石棺仏、石棺板碑、石棺の底石、ほほえみ地藏



●所在地/加古川市平荘町西山122

●交通/JR加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行「西山」バス停から南へ徒歩3分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ5.5km